

## 民族学の学術動員：平野義太郎の戦時プロジェクト

清水昭俊

### §1 学術動員

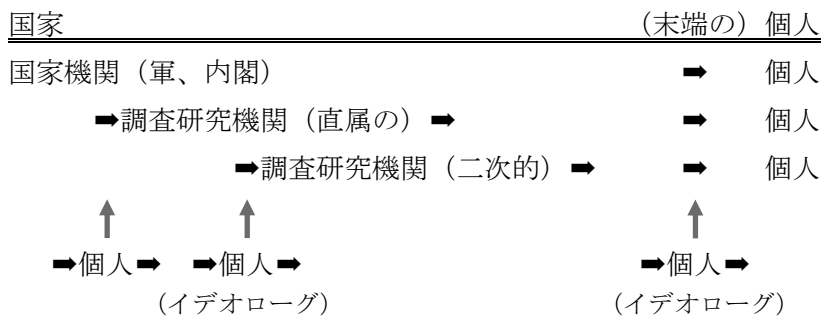
#### 総力戦国家総動員の構想

精神動員ないし民心動員  
各種有形的動員  
  国民動員  
  産業動員  
  交通動員  
  財政動員  
  その他の諸動員  
    科学界の動員 [=学術動員]  
    教育界の動員

(陸軍臨時軍事調査委員会、1920)

#### 精神動員

##### 動員の組織



調査研究機関 (直属の)：満鉄調査部、東亞研究所 (⇒ 平野義太郎)

調査研究機関 (二次的)：

(岡正雄⇒) 民族研究所+財団法人民族学協会 (岡正雄) ⇒

公益法人太平洋協会 ⇒ 平野義太郎 ⇒

#### 個人の動員：連続的な二面動員

「精神動員」：国家「國策」への献身を呼びかける文化的支配

権力的強制：思想統制と弾圧

動員：召命 (大義の呼びかけと命令) ～ (献身の) 賞賛 ～ 回心、自発的献身

弾圧：排除 ～ 自己批判 ～ 回心、転向

**転向**

- (狭義) 権力的強制への屈服を経由した思想信条の「自発的」変更  
 (広義) イデオロギー的呼びかけへの応召による思想信条の「自発的」変更

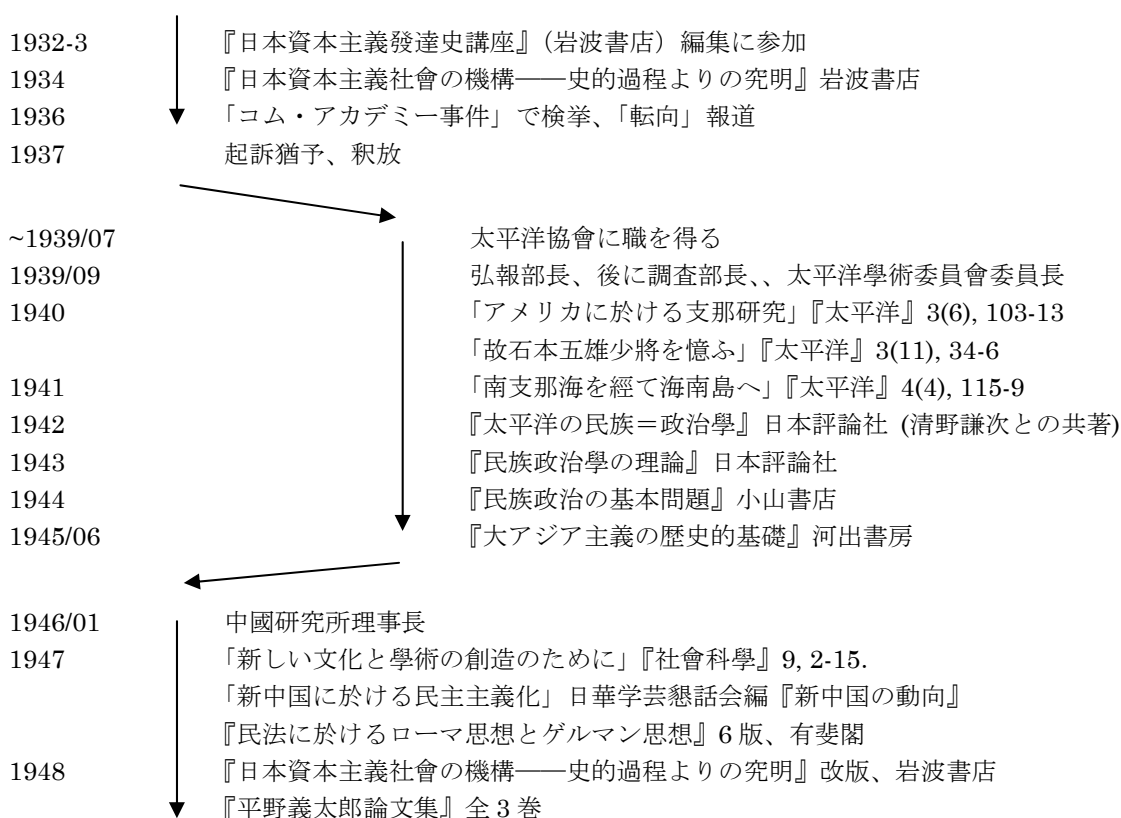
強制された転向 ～ 偽装転向 ～ 自発的転向  
 再転向 ～ 偽装転向の偽装

**研究機関の整備 (新設のもの)**

- 1932 国民精神文化研究所 (文部省) —— 堀一郎 和歌森太郎  
 財団法人日本學術振興會
- 1934 (日本民族學會)
- 1938 太平洋協會 —— 平野義太郎 清野謙次 (杉浦健一)  
 財団法人東亞研究所 (企畫院) —— 西村朝日太郎 棚瀬襄爾  
 第六調査委員會 (支那慣行調査) —— 平野義太郎
- 1939 東京帝國大學理學部人類學科 —— 杉浦健一
- 1940 總戦力研究所  
 帝國學士院東亞諸民族調査委員會  
 —— 宇野圓空 石田英一郎 (1903-1968) 及川宏 (1911-1945) 小口偉一
- 1941 岡正雄「歐洲に於ける民族研究」『改造』8, 64-66.  
 参謀本部囑託岡正雄  
 東京帝國大學東洋文化研究所
- 1942 支那關係調査機關聯合會 (興亞院)
- 1942/5/19 民族研究所設立準備委員會
- 1942/8/20 財団法人民族學協會 (8/17 日本民族學會解散)
- 1942 陸軍政府調査部門 (シンガポール、マレー、ジャワ、スマトラ、北ボルネオ)  
 北ボルネオ軍政部+太平洋協會 —— 土方久功
- 1943 海軍ニューギニア調査隊 (太平洋協會海軍南方調査) —— 泉靖一
- 1943/1/18 民族研究所 (文部省) —— 高田保馬 小山榮三 牧野巽 内藤莞爾  
 中野清一 岡正雄 古野清人 杉浦健一 鈴木二郎 今西錦司  
 石田英一郎 江上波夫 岩村忍 佐口透 八幡一郎 徳永康元  
 關敬吾 柴田武 渡邊照宏ほか
- 1943 海軍マカッサル研究所 —— 馬淵東一 (1909-1988)  
 臺北帝國大學南方人文研究所 — 移川子之藏 宮本延人 馬淵東一 鹿野忠雄
- 1944 調査研究動員本部  
 北ボルネオ軍政部 (太平洋協會派遣) —— 鹿野忠雄  
 蒙古善隣協會西北研究所 —— 今西錦司 石田英一郎 梅棹忠夫
- 1945 京城帝國大學大陸資源科學研究所 —— 泉靖一 (1915-1970)

**§ 2 平野義太郎**

- 1921 ↓ 東京帝國大學法学部民法研究室卒業、同助手
- 1924 『民法に於けるローマ思想とゲルマン思想』有斐閣
- 1927-30 フランクフルト大学社会科学研究所に留学
- 1930 ↓ 「共産党シンパ事件」治安維持法違反で検挙、依願免職



### § 3 太平洋協會

名称 公益法人太平洋協會

公式の英語名称 The Institute of the Pacific

機關紙 (誌) 『太平洋旬報』 (~ca.1938/11)

月刊『太平洋』 第一卷第一號 (ca.1938/11) (第一卷は第二號まで)

~第八卷第六號 (ca.1945/6) (第八卷第四號は発行されず)

#### 年譜

1938/05/11 發會式

1941/09/20 「東亞政治經濟」誌を「太平洋」誌に統合す 1945/08 「終戦とともに太平洋協会を自発的に解散す」

1949 [1946?] 「この頃、太平洋協會に代わるものとして太平洋文化協會 (会長芳澤謙吉、常務理事山田文雄)、東亞研究会 (のち中国研究所、会長櫻内幸雄、常務理事平野義太郎) を組織、ともに副会長に就任す。」

1953/07 「太平洋文化協會を太平洋協會に還し、会長に就任す。季刊『太平洋』を發行す。」

1957/05 「太平洋協會創立二〇周年。」

## 理念、規約

### 太平洋協會規約

第二條 本會ハ東西兩半球ニ跨ル太平洋ノ諸問題ヲ調査研究シ、太平洋政策ニ關スル國民ノ認識ヲ深メテ國論ノ基礎ヲ固メ具體的政策ノ確立ニ依リ之ヲ國策ノ上ニ實現スルヲ以テ目的トス

第三條 本會ハ第二條ノ目的ヲ達成スル爲メ左ノ諸事業ヲ行フ

二、我國人口問題ノ解決、拓殖移民ノ方策、通商障害ノ排除、資源ノ公平ナル分配、領土ノ平和的變更等ニ關シテ之カ對策ヲ講スルコト

### 鶴見祐輔（1885－1973）

1910.7 東京帝國大學法科大學政治科卒業。

1918 鐵道院官房文書課長

1919.6 後藤新平の欧米視察旅行に随行（新渡戸稲造、笠間杲雄、田島道治、岩永裕吉）

1925.7 第一回太平洋會議（ホノルル）出席、太平洋問題調査会（Institute of Pacific Relations）の設立に参加

1926.4 新設の日本太平洋問題調査会の理事に選出される（1929.7～理事長新渡戸稲造）

1927.7 第二回太平洋會議（ホノルル）出席 ～27.8

1927.11 米國（講演）旅行 ～28.1

1928.2 衆議院選挙に当選。新自由主義協會を創設（會長新渡戸稲造）

1929.10 第三回太平洋會議（京都）

1930.2 衆議院選挙に落選

1930.5 米國旅行、講演と著述 ～31.9

1931.10 第四回太平洋會議（上海）

1933.8 第五回太平洋會議（カナダ・バンフ）

1936.1 [日本太平洋問題調査会、日本國際協會と合併、同協會太平洋問題調査部]

1936.2 衆議院選挙に当選、立憲民政党に入党

1936.7 第六回太平洋會議（ヨセミテ国立公園） ～36.8

1937.4 衆議院選挙に当選

1937.7 國際新教育會議出席（オーストラリア）、旅行 ～37.10

1937 年末前後、米國旅行（3か月）

1938.5.11 太平洋協會創設

1933/2 日本の人口増加は...民族の膨張は大川の水嵩の増すやうな自然である。通商自由と移民自由の原則の國際的に確立せられざる限り、活力旺盛なる民族の發展を遮り止るべき理論上の根據はない。...何となれば極端なる移民排斥と高き保護關稅障壁を築きたる米國としては、日本の自然なる發展を阻止すべき理論上の根據を持たないからである。

1939/5 昭和十四年五月...私が始めて鶴見さんに会った時、鶴見さんは専[常]務理事として太平洋協會の設立の趣旨を大要次のように話された。「いま日本は支那事變で大陸の泥沼に足を踏みこんで、進むに進めず、退くに退けない、...日本人の眼を大陸から南洋に向け、南方に日本人は平和的に進出すべきだ、殊にニューギニアは原住民も少なく未開發である、これを買収して勤勉な日本人が植民すれば、その方が大陸の戦費に比べれば遥かに安上りだ、...」と。

1940/1 米内内閣成立、内務政務次官（－1940/7）

1942/5 翼賛政治会（事実上、衆議院全議員が参加した院内会派）総務

1946/1 公職追放  
1950/10 公職追放解除

## 役員

(會長 欠員)

松岡洋右 副會長 (-41/7) 理事

永田秀次郎 副會長 (-43/9 没) 陸軍省親任官嘱託軍政最高顧問 (42/2-)

村田省藏 理事 大阪商船社長 陸軍省親任官嘱託軍政最高顧問 (42/2-)

松江春次 理事 -- 南洋興發社長

藤山愛一郎 理事 (39/-) 商工会議所会頭 海軍省嘱託軍政最高顧問 (42/2-)

## 組織

總務部、企劃部、調査部、弘報部で発足。

1940.5 頃 国際部を加えて、5 部編成に。

1941.8 頃 国際部を東亞部に変更。

	'39/4	'39/10	'40/6	'41/9
調査部長 栗原作二郎	山田文雄	山田	山田	山田
弘報部長 澤田謙	澤田	平野	平野	平野
企劃部長	栗原	澤田	澤田	澤田
				国際部長 金井
				東亞部長 金井

1942.7 頃 「太平洋協會職制規程改革」

調査部を調査局に改編。研究部、調査部、民族部を置く。

調査局 局長 専務理事	鶴見祐輔
調査部長兼民族部長	<u>平野義太郎</u>
研究部長	<u>山田文雄</u>
資料課長	<u>關 嘉彦</u>

## 活動

1) 調査研究

2) 政策検討

南方對策委員會、大東亞共榮圈經濟再編成委員會、濠洲對策委員會、北方對策委員會、  
印度對策委員會、等

3) 「太平洋學術委員會」「懇話會」「懇談會」：協會と外部関係者との直接的コミュニケーションの場

「太平洋學術委員會」：専門家を組織しての調査研究、委員長は平野義太郎

太平洋學術委員會第二部國際政治研究會

自然科學委員會

「南洋民族風俗習慣研究會」

國際政治研究會

比律賓研究會

比律賓學術委員會 フィリッピン學術委員會

東印度諸島學術委員會

(植民政策研究會)

ボルネオ政治、經濟、民族研究會

太平洋協會南方班  
 學術委員會（熱帯醫學の座談會）  
 學術委員會（混血に関する研究會）  
 學術委員會（南方衛生榮養委員會）  
 學術委員會（南方食糧研究會）  
 學術委員會（榮養醫學委員會）  
 醫學委員會  
 學術委員會  
 アメリカ研究會

4) で刊行する図書のかかなりの部分を産出

「懇話會」：協會がターゲットとする有力者（軍、閣僚、官僚、財界、研究機関など）を対象とした、外部から招聘した専門家の講演による啓蒙

「懇談會」：より範囲を絞った外部有力者（協會が意図する政策提言の対象）と、外部から招聘した専門家との情報交換の場

4) 知識普及：月刊機関誌『太平洋』、図書の刊行

### 軍への貢献

北ボルネオ軍政部調査部  
 ca1942/4 「太平洋協會南方調査團」結成  
 海軍ニューギニア調査隊  
 1943/1/4 海軍南方調査隊壮行會

## § 4 平野義太郎と太平洋協會

戦時期、二つの拠点：太平洋協會、東亞研究所第六調査委員会

太平洋協會では、弘報部長、調査部長、太平洋學術委員長として、研究と出版を組織。

### 平野の出版プロジェクト

太平洋協會編

- 1940/10 『佛領印度支那——政治・經濟』東京：河出書房。1942年第7版発行。
- 1940/12 『南洋諸島——自然と資源』東京：河出書房。  
長谷部言人
- 1941/5 『大南洋——文化と農業』東京：河出書房。  
杉浦健一
- 1942/6 『フィリッピンの自然と民族』東京：河出書房。  
三吉朋十 八幡一郎 清野謙次
- 1942/7 『南方醫學論叢』東京：南江堂。1944/5『太平洋醫學論叢第1輯』改題発行  
[1943/1 『濠洲の自然と社会』東京：中央公論社 鶴見裕輔 清野謙次 關嘉彦
- 1943/05 『ニューギニアの自然と民族』東京：日本評論社。  
清野謙次
- 1943/08 『ソロモン諸島とその附近——地理と民族』東京：太平洋協會出版部。  
清野謙次 杉浦健一 青山道夫 平野義太郎  
R. C. Thurnwald H. I. Hogbin M. Mead

- 1943/12 『太平洋の海洋と陸水』東京：岩波書店。  
清野謙次
- 1944/5 『ニューカレドニア・その周縁』東京：太平洋協會。  
清野謙次 太平洋協會調査部
- 1944/5 『太平洋圏——民族と文化』上巻、東京：河出書房。  
大井正 松本信廣 鹿野忠雄 土方久功
- 1944/6 『南方へ挺身する人々』東京：日本評論社。
- Man, Edward H. (太平洋協會編訳)  
1944/9 『ニコバル島とその住民』東京：富山房創立事務所。(The Nicobar Islands  
and their people, Guildford, Eng., 1932)
- 江崎悌三 (太平洋協會編)  
1944/9 『太平洋諸島の作物害虫と防除』東京：日本評論社。
- 富士原清一 (太平洋協會編)  
1944/11 『ニューヘブリディーズ諸島』東京：日本評論社。
- 泉靖一・鈴木誠 (太平洋協會編)  
1944/11 『西ニューギニアの民族』東京：日本評論社。
- 小林宏志・服部敏 (太平洋協會編)  
1945/2 『西ニューギニアの衛生事情』東京：日本評論社。
- 三森定男 (太平洋協會編)  
1945/2 『ビルマ・シヤンの自然と民族』東京：日本評論社。
- 清野謙次 (太平洋協會編)  
1943/05 『太平洋民族學』東京：岩波書店。  
1943/08 『スマトラ研究』東京：河出書房。

### 人学者の動員

太平洋協會囑託 清野謙次  
杉浦健一、中山英司が協會の研究活動に密接に協力  
各種學術委員會  
機関誌『太平洋』執筆  
出版物執筆、「調査隊」